

平成二十六年 第一回 入学試験問題

国語

【受験上の注意事項】

- 一、試験時間は五十分で、百点満点です。
- 二、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。
- 三、解答用紙はこの冊子の間にはさんであります。
- 四、受験番号・氏名を解答用紙の決められた欄にかならず記入しなさい。
- 五、問題は八ページ・四題あります。問題がぬけていたり、印刷がはっきりしない場合は申し出なさい。
- 六、各問題とも解答は解答用紙の決められたところに記入しなさい。
- 七、何か用事ができた時はだまって手をあげなさい。ただし、問題の内容についての質問はできません。
- 八、解答用紙だけを提出し、問題用紙は持ち帰ってかまいません。

一 次の①～⑧の——線の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

- ① 日本は治安いせいがいい国だ。
- ② 開口一番いっさい威勢いせいがいい。
- ③ 首相の去就しやうしやうが注目される。
- ④ 使役しやくの助動詞を学習する。
- ⑤ ケイカイなリズムでおどる。
- ⑥ ケツソウを変えて走る。
- ⑦ 雨でも体育祭をケツコウする。
- ⑧ あれが改革のコンカンだ。

二 1～2のそれぞれの問いに答えなさい。

- 1 次の漢字の総画数を算用数字で答えなさい。
- ① 激 ② 垂 ③ 裏 ④ 看

- 2 次の故事成語の□にあてはまる漢字一字を答えなさい。

- ① □故知新 ② 画竜□睛 ③ 漁夫の□ ④ 他□の石

三 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

(特に指示がない場合、句読点や記号は一字に数えます)

① 荒木公平の人生は——人生というのがおおげさであるならば会社人生は——、辞書に捧げられてきたと言っても過言ではない。

荒木は幼いころから言葉に興味があった。

(中略)

荒木は猛然と受験勉強に取り組み、大学に入った。四年のあいだに、残念ながら自分には学者になれるほどのセンスはないと察しがついたが、辞書を作りたいと願う気持ちは抑えがたかった。大学四年生になった年、小学館から『日本国語大辞典』が刊行されはじめたことも大きかった。

これは、全二十巻という大部の辞書だった。編集作業に十年以上の年月をかけ、約四十五万項目を収録。協力者は三千名に及ぶと言われた。

貧乏学生の身では手が出ない。大学図書館に並ぶ『日本国語大辞典』を、荒木は②震える思いで眺めた。大勢のひとの情熱と時間が注ぎこまれた辞書を。埃くさい静かな図書館の書架で、それは夜空に浮かぶ月のごとく、清浄な輝きを放っているように見えた。

学者として、辞書の表紙に名を載せることは俺にはできない。編集者として、辞書づくりに携わる道はまだ残されている。俺はどうしたって、辞書を作りたい。俺の持てる情熱と時間のすべてを注ぎこんでも悔いのないもの。それが辞書だ。

荒木は猛然と就職活動を繰り広げ、大手総合出版社の玄武書房に入社した。

「それから、辞書づくりひとすじ三十七年ですわ」

「ほう、もうそんなになりますかねえ」

「なりますよ。先生とお会いしてからだって、三十年以上だ。あのころの先生はもつとこう、茂らせてらしたもんだが」

荒木は向かいの席に座る松本先生の頭頂部を見やった。松本先生は用例採集カードに走らせていた鉛筆をおき、鶴のように細い体を震わせて笑った。

「荒木君も、ずいぶんと頭に霜をいたくようになったではないですか」

ざるそばが運ばれてきた。昼どきの店内は会社員で満席だ。荒木と松本先生は、しばし黙ってそばをすすった。松本先生は食べるあいだも、そば屋のテレビから流れる音声に耳を傾けている。聞き慣れない単語や、変わった言葉の用法があつたら、すぐに用例採集カードに書きとめるためだ。荒木はいつものとおり、松本先生の手もとに注意を払った。③用例採集に気を取られた先生が、鉛筆でそばをたぐろうとしたり、箸で字を書こうとしたりするのを防ぐためだ。

そばを食べ終えた二人は、冷たい麦茶を飲んで一息ついた。

「先生が一番最初に手にした辞書はなんですか」

「祖父の遺品として譲り受けた、大槻文彦の『言海』ですね。多大な困難を乗り越え、大槻が一人で編纂した辞書だと知り、子どもごろころにおおいに感銘を受けたものです」

「感銘を受けつつ、ちよつと色っぽい言葉を引いてみたりもしましたでしょう」

「しませんよ、そんなこと」

「そうですか？ わたしはさつきも申したとおり、中学のころの『岩波国語辞典』が最初でしたが、シモがかつた言葉を引きまくりましたよ」

「しかし、あれはきわめて端整で上品な辞書だ。さぞかしがっかりしたことでしょうね」

「そうそう。『ちんちん』を引いても、語釈には犬の芸と湯の沸く音についてしか載ってない。って、先生やつぱり引いたんじゃないですか」

「ふっふっふっ」

そろそろ昼休みも終わりに近い。いつのまにか店内はひとまばらになり、そば屋のおかみさんがコップに麦茶をつぎたしてくれた。

「先生とは長く仕事をさせていただいたのに、辞書にまつわる、こういった記憶を話すのははじめてですね」

「ずいぶんたくさんの辞書を、一緒に作りました。ひとつの辞書を作りあげても、すぐに改訂や改版作業に追われ、ゆつくり語りあうこともできないほどだった。『玄武現代語辞典』、『玄武学習国語辞典』『字玄』。どれも思い出深い」

④最後までお手伝いすることができず、本当に申し訳ないです」

荒木はテーブルに両手をつき、深々と頭を下げた。用例採集カードを束ねた松本先生は、気落ちしたのか、めずらしく背中を少し丸めた。

「やはり、定年になるのをのばせそうにありませんか」

「※すまじきものは宮仕え、です」

「※囁託でもいい」

「できるだけ編集部に顔を出すつもりではないですが……。女房の具合が、どうも芳しくないんですわ。これまで辞書漬けで、なんにもしてやれませんでしたから、せめて定年後はそばについてやりたい」

「そうですか」

いよいよ⑤うつむいてしまった松本先生だが、明らかに空元気とわかる調子で言った。「いや、それがいい。今度は荒木君が、奥さんを支えてさしあげる番だ」

先生のやる気を削いでは、編集者として失格だ。荒木は顔を上げ、松本先生を励まそうと身を乗りだした。

「定年までになんとしても、わたしの後継となる社員を探します。先生を万全の態勢でお助けし、辞書編集部を統率し、わたしたち二人で立てた新しい辞書の企画を推進していける、若く有能な人材を」

「辞書の編集作業は、ほかの単行本や雑誌とはちがう。大変特殊な世界です。気長で、細かい作業を厭わず、言葉に耽溺し、しかし溺れきらず広い視野をも併せ持つ若者が、いまの時代にはたしているでしょうか」

「必ずいるはずですよ。弊社の社員、五百余名のなかに見当たらなければ、他社から引き抜いてでも連れてきます。先生、どうか玄武書房に、ひきつづき先生のお力をお貸しください」

松本先生はうなずき、静かに言った。

「荒木君と辞書を作れて、本当によかった。きみがどんなにがんばって探してくれても、⑥きみのような編集者とは、きつともう二度と出会えないでしょう」

不覚にも⑦嗚咽しそうになり、荒木はあわてて唇を噛みしめた。松本先生とともに本と校正刷りに埋もれて過ごした三十数年が、うつくしい夢のように思われた。

「ありがとうございます、先生」

新しい辞書企画の立ちあげ半ばにして、会社を去らねばならないのは無念だ。辞書は荒木を構成する、ほとんどすべてだった。

同時に荒木は、⑧新たな使命が胸に宿ったのも感じていた。親愛とさびしさと行く手に対する不安をたたえた、松本先生の表情を目にした瞬間に。

俺が辞書編集部員として果たすべき役割は、念願だった新しい辞書を完成させることだとばかり思ってきたが、そうではなかった。俺と同じように、いや、俺以上に、辞書を愛する人間を見つけたことだったのだ。

先生のために。日本語を使うひと、学ぶひとのために。なによりも、辞書という貴い書物のために。

最後の大事な仕事を為し遂げるべく、荒木は意欲に満ちて会社に戻った。

(三浦しをん『舟を』⑧) (一)『む』より)

語注 ※書架…本棚

※「すまじきものは宮仕え」…「会社などに勤めるのは気苦労が多くつらいものだから、で

きるならしない方がよい」

※囑託…ふつうの社員とはちがひ、その能力などを見こまれて仕事を依頼されること

※耽溺…一つのことに夢中になること

※弊社…自分の会社をへりくだっていうこと

※嗚咽…声をつまらせて泣くこと。

問一 部①「荒木公平の人生は…」とありますが、この部分をいかえたとところを本文中から一文でぬき出して答えなさい。

問二 部②「震える思い」とありますが、どのような思いですか。次の中から最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 残念 イ 激怒 ウ 感激 エ 恐怖 オ 後悔

問三 部③「用例採集に気を取られた…」とありますが、この部分からわかる松本先生の人柄はどのようなものですか。次の中から最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人に何でもしてもらおうとする、甘やかされた人柄
イ 一つのことに集中すると周りが見えなくなる人柄
ウ 食べることに興味がなく、何事もいい加減にする人柄
エ 何事にも挑戦し、努力する前向きな人柄
オ 年を取り食事も一人でとれないが、若ぶっている人柄

問四 部④「最後までお手伝いすることができず」とありますが、どうしてですか。その理由を「くから」につながるように、本文中から五字でぬき出して答えなさい。

問五 部⑤「うつむいてしまった松本先生」とありますが、松本先生はどのような気持ちからそのような態度をとったのですか。それがわかる部分を本文中から十七字でぬき出して答えなさい。

問六 部⑥「きみのような編集者」とありますが、具体的にはどのような人を言うのですか。「く人」につながるように本文中から三十九字でぬき出し、初めの五字で答えなさい。

問七 部⑦「新たな使命」とありますが、その使命とは何ですか。本文中から二十字でぬき出して答えなさい。

- 4 -

問八 部⑧が「いくつかの文や文章を集めて本をつくる」という意味になるように（ ）

に本文中から漢字一字をぬき出して答えなさい。

四 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

(特に指示がない場合、句読点や記号は一字に数えます)

こうやって、「無言館」の絵を画学生さんたちの手紙や写真などといったしよにみてゆくと、いつそう「戦争」の残酷さや愚かさ(おろかさ)が私たちの心に伝わってくるようです。そして、画学生たちがそんな暗い戦争の時代の中で、どれだけ「絵を描くこと」に情熱をもち、それを生きる希望にしていたかがわかって胸がしめつけられます。

①それは、私たちに今生きている時代の「平和」がどんなに尊く(とうとく)ありがたいものかを教えてくれることでもあるでしょう。私たちは今、何不自由ない生活を約束され、おいしいものを食べ、行きたいところに行ける幸せな時代に生きています。好きな歌を歌い、好きな絵を描き、好きな勉強ができるゆたかな時代に生きています。いうまでもなくそれは、私たちの住む現在の日本が「戦争」のない「平和」な国であるからにほかなりません。

(A)、この地球上のどこかでは、今も「戦争」がおこっているという現実があります。たくさんさんの国で、宗教や民族の考えのちがひから戦争がおこり、数知れない人々が戦地で死んでいるのです。その結果、親のいない子や家を焼かれた人たちが寒さや飢えに苦しんでいます。けつして世界じゅうが日本のように「平和」ではないのです。

そう考えると、ゾツとします。この「無言館」にらんでいる戦没画学生のように、いくら絵が好きでも描くことをゆるされない、そういう不幸な人々がどこかにいると考えるだけで、ゾツとするのです。私たちは自分たちだけが幸せであればいいものではありません。同じ人間として、やはり他の国の多くの人たちも「平和」な世界に暮らしてほしいのです。(2)に好きな絵を描き、(2)に自分の意見をいうことができる、そんな「平和」な国に暮らしてほしいと願っているのです。

そうです。「無言館」の画学生さんの絵は「絵を描くよろこび」にあふれているといいましたが、それは人間の「生きるよろこび」でもあるのです。人間はだれでもその「生きるよろこび」をもって生まれてきているはずですよ。いや、すべての人間には「生きるよろこび」をもつ権利(けんり)があたえられているといってもいいかもしれません。「無言館」にらんでいる戦没画学生たちの絵は、私たちに静かにそのことをうたえつつけているのです。

(B)、この美術館にはなぜ「無言館」というようなヘンテコな名前がつけられているのでしょうか。「無言」とは読んで字のごとしで、「人間がだまっていること」「何も言葉に出さないこと」という意味ですが、それではこの美術館は「だまっている美術館」なのでしょうか。だから「無言館」と名づけられているのでしょうか。

- 5 -

たしかに戦没画学生たちの絵とかぎらず、絵というものは「無言」です。おしやべりする絵などというものはきいたことがありません。ピカソの絵だってマチスの絵だって、他のどんなに有名な画家たちの絵だって、ただだまってそこにいらんでいるだけです。絵は私たちがそれをじっとみつめることによって、はじめて私たちの心に何ごとかを語りかけてくるものなのです。テレビやレコードのように、スイッチを入れると歌や言葉が勝手にながれてくるものではなく、ただそこにあるだけでは絵は何も語りかけてはきません。そういう意味では、絵はいつも「無言」なのです。

じつは、この美術館の名にはもう一つの意味がこめられています。

それは、戦没画学生たちの絵をみる私たちもまた、やはり「無言」であるということです。なんともいうようですが、私たちは今とても幸せなゆたかな時代に暮らしています。世の中にはモノがあふれています。ですから、戦没画学生さんたちが味わった苦しみや悲しみを、今の私たちが同じように味わうことはとてもむずかしいのです。戦争中なのでモノが不足していたとか、食べるものがなかったとか、勉強する時間がなかったとかいわれても、それを③ちゃんと理解することはなかなか困難なことです。

戦没画学生さんのことを、

「気の毒に。」

とか、

「そんな時代に生まれてツイてなかったね。かわいそうに。」

とか同情することはできても、心の底からその苦しみや悲しみをわかってあげることにはできません。

ちょうどそれは、今の子供たちがおばあちゃんやおじいちゃんから「昔はモノがなかったんだよ。」とか「みんなお腹が空いていたんだよ。」とかいわれて、ちよつぱりこまってしまうのと同じかもしれません。何もかもがじゅうぶんにあたえられる世の中に育っている子供たちには、おばあちゃんやおじいちゃんがすごした戦争の時代のつらさがよくわからないのです。それをぼんやりと想像することはできても、ほんとうに食べるものがない時代や、住む家のない時代に生まれた人たちの気持ちにはなかなかないのです。

「無言館」という名前には、絵が私たちに「無言」であるだけではなく、私たちのほうも画学生さんたちの絵にむかって「無言」であるという意味もふくまれているといつていいでしょう。

それから、もう一ついえることは、「無言館」の絵の前に立ったとき、④私たちは現在の自分たちの生活に対してなんとなく疑問を抱いてしまうということです。朝から晩までゆたかなモノにかこまれているだろうか、という疑問です。明日戦争で死んでしまうかも知れない画学生さんたちが、その短い一生を「絵を描くこと」にささげていたのと同じように、私たちにこんな一生懸命生命をかけてうちこめる目的があるのだろうか、という疑問なのです。

(C) おいしいものをお腹いっぱい食べたときは幸せです。お小遣いをたくさんもらって好きな洋服を買ったときもそうです。学校の休みの日に、マンガを読んだり映画をみたり、旅行をした

りするのが大好きな人も多いことでしょう。

でも、こうして戦没画学生さんたちの絵をみると、人間の幸せは⑤そういうものばかりではないことに気づかれます。たとえ戦争へゆく運命であっても、貧乏で絵の具や鉛筆がじゅうぶんに買えなくても、画学生さんたちには「絵を描く」というすばらしい人生の目的があったのです。毎日毎日、こんどはこういう絵を描こう、こんなものを描いてみよう、という希望とよろこびにあふれて生きていたのです。ですから「無言館」にならんでいる画学生さんの絵は、ちつとも悲しくも苦しくもみえず、むしろ生き生きと輝いてみえるのです。

そして、そうした画学生たちから⑥「絵を描くよるこび」をうばっていった「戦争」のことを、私たちは日頃つい忘れがちだったことにも気づかされます。毎日のたのしいゆたかな生活に慣れてしまつて、五十何年も昔にそういう悲しいできごとがあったことをすっかり忘れてしまっているのです。私たちはそんな自分に気づくと、なんだが⑦「気持ちが悪いです」。

(D) 、私たちが生きていく今日の平和な時代も、その「戦争」という歴史の上にきずかれたものだからです。たとえ私たちにあの「戦争」をおこした責任はなくても、私たちは自分の生まれたこの国がおかしたあやまちや、そのあやまちによつて死んでいったたくさんの人たちのことを忘れてはなりません。そして今も地球の裏がわで、たくさんの方々が戦争をおこし、罪もない若い青年や幼い子供たちが犠牲になっている事実を忘れてはならないのです。

「無言館」の絵の前で、なんとなく私たちが「無言」になつてしまうのは、そんな私たち自身のことを考えてしまうからかもしれませんね。

(窪島誠一郎『「無言館」ものがたり』より)

問一 (A) (D) に入る言葉をそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

ア たしかに イ なぜなら ウ けれども エ ところで

問二 部①「それ」とは何を指していますか。「くこと」につながるように本文中から三十三字でぬき出して答えなさい。

問三 (②) には同じ言葉が入ります。入るのにふさわしい言葉を本文中から漢字二字でぬき出して答えなさい。

問四 部③「ちゃんと理解すること」とありますが、これと同じ意味の言葉を本文中から十文字でぬき出して答えなさい。

問五 部④「私たちは現在の自分たちの生活に対してなんとなく疑問を抱いてしまう」とありますが、どんな「疑問」を抱いてしまうのですか。次の() にあてはまる言葉を本文中から十七字でぬき出して答えなさい。

() を持っているかどうかということ

問六 ——— 部⑤「そういうもの」とありますが、「そういうもの」としてあてはまらないものを

次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 開校記念日に親が見ていないので、一日中家でゲームをすること
- イ 数年間貯めたお年玉を使って、将来のために英会話教室に通うこと
- ウ 食べ放題のお店なので、苦しくなるまで食事をする事
- エ 映画の撮影で使われた話題の場所に旅行に行くこと

問七 ——— 部⑥「絵を描くよろこび」とありますが、これと同じ意味の言葉を本文中から七字で

ぬき出して答えなさい。

問八 (⑦) に入る言葉として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 恥^はずかしい
- イ 誇^{ほこ}らしい
- ウ 腹立^{はら}たしい
- エ 嬉^{うれ}しい

得点

--	--

(a) _____

問五

同六

問七

問
八

[illegible]

--	--

三

[illegible]

五

六

同七

問八